

校長室から応援メッセージ(6)

令和7年11月13日(木)

「受験の全日程を駆け抜けてください」

皆さん、こんにちは。11月に入り、急に寒くなりました。一年は厳しい夏と冬だけで、ほどよい季節というのがなくなってしまったかのようです。まるで私の人生みたい…。しかし何歳になってもこの先、きっとよい季節が待っている。そう信じて、めげずに日々の生活を営んで参りたいと思います。冒頭に個人的な決意表明で失礼しました。

さて、受験シーズン本番が近づいてきました。皆さん、これまでのペースを崩さないでください。「受験のために受験勉強があるのではなく、受験勉強のために受験がある」と以前申し上げました。そんなこと言われても、と感じたでしょうが、身も心もかけて取り組む日々の受験勉強の方が本番であるとは私は思います。

受験当日はあっという間に終わり、このあっけなさにこれまでの勉強が役に立ったのか、十分だったのか、という疑念が生まれます。でも身についた知識は、それと意識しないで使っているのです。夏の暑さにも負けず机に向かって得た知識は、たとえ思い出せず忘れてしまったようでも試験中に活躍しているのです。

受験当日、今まで身につけた知識を試験会場で全て吐き出そうと意気込むと、その意気込みは空回りします。模擬試験のようなつもりで(河合塾全統プレ共通テストパート2のような感じで)いいと思います。当日を受験勉強の集大成と考えて臨むよりも、いつも通りの気分で迎え、その後もそのまま受験の全日程を駆け抜けてほしいです。

駆け抜ける勢いに促され、励まされて、試験の最中には、これまで学んできた知識が自然に動き出します。忘れてしまったかと思える一つひとつの知識が、無意識のうちに全体として大きな力を発揮し、鉛筆を握る私の手を動かすのです。ひたすら自分を無にして、これまで馴染んできた勉強の世界に身を任せましょう。

私事になりますが、今の私は過去の私と共にあります。予備校に通う私。大学を出て高校教員になったばかりの私。どこにいるのか指し示せませんが、たくさんの私と共に今私はここにあります。それと同様に、私が学んだ知識は、私にピッタリ張り付いているというより、どこにあるのか所在は不明でも、どこかにあって私に寄り添うように存在しているのです。

山梨予備校で学んだことが幾重にも皆さんを取り巻き、当日の皆さんは受験の全日程を駆け抜ける勢いの中で無心に答案と向き合ってください。これから起こる全てのことは運命です。運命を潔く受け入る覚悟と同時に、自分の底力を信じて歩き続ける日々、そして人生であってほしいと思います。健闘を祈ります。